

PD3 「緊急内視鏡検査における内視鏡技師の役割」

イムス札幌消化器中央総合病院

○ 萬田吏 佐藤佳美 加藤来夢 岡田久美子 関谷法子
佐川直美 膳法結花 中野真弓 福島愛

I. はじめに

当内視鏡センターは、開設当初より地域の救急搬送の受け入れをしており、昼夜を問わずに緊急内視鏡検査が入る。

特に最近は、夜間帯での緊急内視鏡検査数が増加し、2019年に87件だったのが2020年には142件に増加している。

夜間帯でのマンパワーが少ない状況下で、緊急内視鏡検査を安全に施行するために、色々な方法で学習をしてきたが、今回は一年をかけて緊急時の基礎知識の習得からシミュレーション学習までを行うことで緊急内視鏡検査において、内視鏡技師として安全な検査が提供できるようになったので報告する。

II. 目的

シミュレーション学習による緊急時内視鏡対応への効果を調査する

III. 方法

- アンケート調査

IV. 結果

シミュレーション学習の方法と内容の両方でスタッフ評価は、「良かった」が100%だった。

アンケート結果の内容として、ベテランスタッフの意見は、「血圧測定の間隔を変更した方が良かった。」「医師も言っていたが、リアルだった。」「急変時のシミュレーションは今後も忘れかけるころにやったらいいと思う。」また内視鏡勤務経験が少ないスタッフからは、「実際にありそうな場面でありシミュレーションが出来て良かった。」「実践的だった。」「ほとんど経験することがないので、流れがつかめて良かった。」「普段あり得る状況の設定で今後も活かすことができると思った。」などがあげられた。

V. 考察

当内視鏡スタッフの多くは看護師歴も長く、BLS研修などの参加経験を持つスタッフも多くいる。しかし、研修を受けてから時間が経過しており、今回改めてシミュレーション学習をしたことで、各スタッフが緊急時対応に必要な知識と技術の再確認が出来たと考えられる。

また、シミュレーション学習を行った後、実際にショック状態で緊急上部内視鏡止血術を行った患者を経験することがあり、担当したスタッフからは「シミュレーションしたことで、スムーズに対応できた」と評価があった。

これらのことから、緊急内視鏡検査の対応にシミュレーション学習は効果的な方法であったと考えられる。

しかし、緊急内視鏡検査は医師との連携も不可欠と考え、今回のシミュレーション学習にも最初から医師に参加をしてもらい計画を立案していたが、業務調整が上手く出来ずに何度も開催を延期した。

今後も継続的に学習をしていくには、事前の業務調整を工夫して計画的に出来るようにする必要がある。

VI. 結論

緊急時内視鏡におけるより良い対応をするためにシミュレーション形式の学習は有効であった。

今回の結果だけで満足することなく、今後も継続してシミュレーション学習を行っていくことが必要であると考えられる。